

YNAC通信

2012.7.20 NO.29



屋久島で忘れていた何かを思い出す

松本 毅

屋久島は1993年に世界遺産に登録されて今年で19年目を迎える。1993年の入り込み客数は20万人だったのが、2011年では35万人にのぼる。また「一生に一度は行ってみたい世界遺産ランキング」において、国内では第1位の座をキープしている。

一番人気の縄文杉の登山者数も2000年では29,700人だったのが、2011年では72,159人と2.4倍に増加した。

港や空港周辺では、かつては大きなザックを背負った登山客がぞろぞろと歩いていたのだが、最近は渋谷からそのまま来たのかと思わせるようなファッショナブルな格好をした若者がキャリアバックをゴロゴロと引いて歩いている。YNACツアーへの参加も以前は数か月前から予約をしてくる方が多かったが、最近では旅行出発直前に予約を入れてきたり、屋久島に来てから「明日、何かできますか?」という問い合わせが増えた。

初めて屋久島を訪れるきっかけは「縄文杉」であったり、「世界遺産」であり、旅行パンフレットには、「世界遺産」「神秘の島」「太古の自然が残る」「パワースポット」などの言葉が目立つ。

屋久島を訪れる客層やニーズもずいぶん変化してきたようである。

また屋久島はリピーターが多い観光地でもあり、YNACのお客様の中にもリピーターが8%ほど、しかも、3回目、4回目というハードリピーターの方が少なからずいらっしゃる。

しかし、二度三度と訪れる方の中に毎回縄文杉を訪れる方はほとんどいない。また世界遺産めぐりなら二度目は他の遺産地域をめざして屋久島へは訪れないであろう。それでも何度も屋久島に足を運んでくださる理由はいったい何なのだろうか。

それは屋久島のガイドブックがたくさん出版され、女性が初めてでも一人旅がしやすくなったり、エコツアーガイドが全くアウトド

アの経験がない初心者の方を親切に導いてくれるなど、屋久島やアウトドアが身近になったことが、ハードな登山を目指す方ではない方が増えている理由ではないだろうか。また、他の世界遺産地域とは少し違った印象を持ち、何度も訪れたいくなるのではないだろうか?

屋久島で初めての一人旅を経験したり、エコツアーガイドの導きで今まで気づかなかった自然の素晴らしい仕組みに触れることにより、屋久島がその方にとって何か特別なところになっていくようなのである。

その皆さんが共通して屋久島旅行の感想で口にするのは、縄文杉や世界遺産といった特別なものとの出会いではなく、さわやかな森の空気やおいしい沢の水であったり、抜けるような空の青や鮮やかな森の緑であったり、自分を取り囲むキビナゴの群れや淡々と命をはぐむ生き物の姿であったりする。

それはかつてどこにでもあった自然であり、都会の便利さの中で失われていったものである。しかし、屋久島の森や海や川で自然の中に身を置き戯れることで、心身ともに解放され、日常生活の中で忘れてしまった何か原初的な感覚のようなものを思い出すのではないだろうか?それは、日々抱えている仕事やお金や人間関係などの欲求よりもっと命の根源的なところで欲しているものが蘇ってくるからなのではないだろうか?

「縄文杉」や「世界遺産」のキーワードで思い描いていた印象とはかけ離れた期待以上の強烈な印象がロコミで広がり、一度は行ってみたい憧れの地となり、また何度も屋久島へ足を運んでしまう原動力となっているような気がする。

屋久島は、そんな「人間」という生物としての命が存在していたことを思い出させる原始の自然が残されているところなのである。

トッピー vs クジラ騒動記

市川 聡

巡視船さつまに引かれるトッピー／水平線に夕陽が沈む

4月、今年も池田君とともにブルネイに行ってきました。美しい熱帯の朝焼け、夕焼けに心を洗われ、ピントロングやクロコダイルに驚かされ、熱帯ハイとなって家路につくはずでした。しかし熱帯の余韻を楽しむはずが、帰国してからが苦難の連続となりました。

4月20日、香港の乗り継ぎで、預けたバッグが行方不明となり、着替えも非常用装備も何もかも失った状態で、屋久島に帰ることとなりました。

翌4月21日朝、今回もリピーターの藤井さんと加藤先生に築地で朝寿司とコーヒーをご馳走となり、満たされた気分で鹿児島までは帰ってきました。ところが屋久島行き飛行機が、不甲斐ないことに天候不良のため1度も着陸を試みることなく、鹿児島空港に引き返してしまいました。この時点で次の最終便の欠航も決まり、この日の帰島はなくなってしまいました。

まあこのあたりはよくあることなので、さてどうしたものかと携帯で天気予報を調べ、なんとか翌日の飛行機は飛びそうだと判断し、地上係員の女の子に、翌朝1番の飛行機に振り替えてもらうように頼みました。ところがこの女の子が、「明日も天気が悪そうだからトッピーの方が良いですよ、トッピーの方が良いですよ。」と、繰り返し諭してくれます。「僕の携帯の天気予報によると、明日の朝はもう雨が上がっていきそうですよ。」と訴えたものの、「いやいや、今日とあまり変わらない天気ですよ。トッピーの方が良いですよ。トッピーの方が良いですよ。」と繰り返します。親切にもトッピーの時刻表を渡してくれ、「朝1便のものよりも7時45分発指宿経由のトッピーが屋久島には早く着きます。これで帰るのが良いですよ。」と教え

てくれます。まあ携帯の天気予報もあたらぬので、トッピーの方が確実だと思ひ直し、航空券を払い戻し鹿児島市内で1泊しました。着替えもないまま帰国後2泊目となりました。

4月22日朝、くだんの子が勧めてくれたトッピーに乗ったことで長い長い1日のはじまりました。一緒にこ乗ったのが池田君と石巻に帰省していたうちのかみさんと3名。混み合っていて2階席はバラバラの席しかとれないといわれたものの、2階席の方が快適だと信じていたので2階席を確保しました。この時、池田君は1階でも良いといったも

の、結果的には2階席が正解でした。

7時45分、席を替わってもらったりして、なんとか2階中央の列に3名並んで鹿児島港を出港しました。順調に指宿港に到着。ここで団体客が続々と乗り込んでほぼ満席となりました。2階席には阪急交通社の北海道、名古屋ツアーなど3つの団体が乗り込みました。

8時30分出航。この日は波の高さが6mから4mということで、佐多岬沖の揺れに備えて、リクライニングして、すぐに眠りにつきました。

8時55分、衝撃が走りました。シートベルトを支点に身体が前に飛ばされそうになり、頭が前の座席の背もたれにぶつかりました。リクライニングしていなかったらもっと激しくぶついていたかもしれません。その瞬間、部屋の前を何か飛んだような気がしました。あとから分かったのですが、2階前方中央にでんと構えていた、いかにも重そうなブラウン管の大型テレビが、ネジ留めしてあったにもかかわらず、衝撃でぶっ飛んだみたいです。直ちにエンジンが停止し、電源が失われ、船が停止しました。船内にどよめきがおき、何かと立ち上がって騒ぎ出す人もいます。

すると操舵室が開いて、「鯨にあたった。鯨にあたった。」と叫びながら、船長と機関長が走り出てきました。船長は頭から血を流し、額を押さえています。乗客の動揺を抑えなければいけない乗務員が動揺してどうする？と思ったが、興奮した様子で「けが人はありませんか」と見て歩いたあと、少し落ち着いたようで、「直ちに海上保安庁に救援を依頼しました」との説明を受けました。以前トッピーで流木との衝突事故があった際に、

何時間もかけて山川港まで曳航されたことを思い出し、これは長くかかるぞとの時思い、YNAC事務所の留守電に第1報をいれました。念のため椅子の下から救命胴衣を引っ張り出して、3名分すぐ着ることができるように用意しましたが、他にはそんなことをしている人はいませんでした。

まもなくすると左舷側に座っていた池田君が、左舷後方に血の海が見えたといいます。後ろを見に行ったら乗客がクジラが潮を吹いていると騒いでいるのが聞こえてきました。この状況で勝手にうろろして野次馬をやっているのかの思いもありましたが、せっかくなので右舷後方の扉の所から、クジラを見に行きました。9時3分、右斜め方向、船より50mくらい後方に真っ赤な血が広がっており、波の間にちらちらとクジラの背中が見えています。まず血の海の写真を1枚撮り、次にタイミングを見計らって波間に見えるクジラの背中を狙って、2枚写真を撮りました。黒々として艶やかな背中では、まさにクジラのものでした。救命胴衣を用意したものの、この血の海ではサメがうようよして、かなりやばそうに思われました。

この頃より船内では、団体旅行の添乗員達が大活躍を始めました。乗務員との連絡役を買ってでて、団体客だけではなく、乗客全員に情報を提供してくれ、毛布や汚物入れの配布、酔い止めの配布など大車輪の活躍です。しかし男性添乗員はすぐに酔ってしまいダウン。最初大活躍していた名古屋の女性添乗員さんは、最後まで頑張っていました。時々後ろに行ってはゲゲゲ吐いていたのは、気の毒でした。最後まで元気だったのは、落ち着いた雰囲気からきた女性添乗員さんでした。

さてエンジンが停止したトッピーは、佐多岬沖の高波になすすべもなく揺れ、早い潮流に流されていきました。こうなったらおとなしく寝ているしかないと思い、リクライニングしてじっとしていましたが、まもなくあちらこちらで吐く声が聞こえてきます。いよいよ状況が悲惨になってきましたが、海猿はなかなか現れません。

待つこと1時間あまり、10時11分、ついに海上保安庁のヘリコプターが姿を見せました。乗客達が一樣にほっとして活気がでてきました。しばらく周囲を巡回した後、1階後部に海猿が3名下りてきて、重傷者をヘリコプターに収容しました。この間30分くらい。重傷者3名が病院へ搬送されました。今回の事故では、乗客はシートベルトをしていたので人がは少なく、「シートベルトをして下さい。」とってまわっていたお姉さんなど、乗員が怪我を負ったみたいです。このお姉さんが、ぶ

つかった衝撃で5mほど飛ばされたとか？それにしてもヘリコプターの到着まで1時間15分以上かかり、もっと深刻な怪我がいたら、間違いなく死んでいたと思われます。ただか佐多岬沖の事故で、ヘリの到着がこれほど遅いのは不思議でした。

ヘリが去ったあと、乗り込んだ保安官が、船内の統制にかりました。2階の担当は、ちょっと可愛い顔をした野村君。ニコニコした彼の顔を見て、乗客はなんとなく安心感を持ってました。1階の担当は名前がわかりませんでした。そしてリーダーは頭にタオルを巻いてやって来た福岡の古賀君。こちらは体育会系の精悍な顔をしています。1階から古賀君が「野村せんしゅ(船首)集合！」と叫んでいるのを聞いて、うちのかみさんは、「海猿ってお互いを選手って呼び合うんだね」と感心しています。。。。。

今回2階の乗客は重傷者もなく比較的元気だったので、怒り出す人もおらず、実に冷静に救助を待ちました。また保安官に好意的で、状況説明があるたびに、その内容が過酷なものであっても、北海道の団体などからは拍手が起り、保安官が驚いてニコリするなどというシーンが繰り返されました。

待つこと30分、10時40分、ようやく巡視艇『さくらかぜ』が、もっと小さな船とともにやってきました。『さくらかぜ』に乗り移って搬送されるのではなく、曳航して行くということ。『さくらかぜ』からロープが発射されるが、最初トッピーとの連結に失敗。2回目ようやく連結に成功。11時15分、『さくらかぜ』(26トン)によるトッピー(164トン)の曳航がはじまりました。最初、潮流に合わせて種子島に曳航すると保安官の説明がありましたが、なぜか潮流が反対でいっこうに進まないのが指宿山川港へ行く先を変更すると説明を受けました。ここまで航走してきた巡視艇が潮流の方向を読み間違えるとは思えないのですが、進まないのではしょうがないので皆だまっていた。流されているうちにいつのまにか馬毛島がすぐそこに見えています。どう考えても種子島西之表港に行く方が早そうでした。

ところが方向転換したもののトッピーはいっこうに進みません。『さくらかぜ』が右に左に見え、大きく左右に振れていることがわかります。乗務員の説明では、曳航速度は1.1ノット、時速約2kmとのこと。歩くよりも遅いスピードで、見ているように進んでいないように見ませんでした。おそらく流されずに現状維持するのがやっとだったのではないのでしょうか？もう1艘の小さな船は手伝うこともなく周辺をうろちょろしています。うちのかみさんは、頑張っている『さくらかぜ』をトーマス、ちょう

ちよろしている小さな船をパーシーと名付けました。

これでは埒が明かないので、大型の巡視船を呼んでいるとの説明が保安官からありました。「大きな船は始動に時間がかかるのですぐには来られない」のだと、なかなか来ない巡視船の言い訳をしていましたが、それでもやはり拍手を送る暖かい乗客達。

待つこと2時間45分、14時になってようやく巡視船『さつま』(1000トン)がやってきました。さすがに大きい。さしずめゴードンといったところでしょうか。これでやっと帰れると希望が湧いてきました。しかしここからの連結作業がまた大変でした。『さつま』から細いロープを発射して、トッピーの側で徐々に太いロープへと引っ張っていきます。最初、保安官2名と乗務員2名で引っ張っていましたが、ロープが太くなるとどんどん重くなるので、乗客の男性に「手伝って下さい」と声がかかりました。元気なおじさん達が勇躍駆けつけてロープを引っ張ります。救援活動に参加できる喜びでしょうか、皆、奪い合うようにしてロープにしがみついています。ソーレ、ソーレと声をかけながら『さつま』と綱引きをしてようやく最後の太いロープがやってきました。太い部分はパワーがあり油断すると海に振り落とされそうです。最後の力を振り絞って、ようやく連結に成功。15時、曳航がはじまりました。この時点で衝突から6時間経過しています。

朝乗船して、何も食べないまま、いつのまにか3時のおよつの時間になってしまいました。しかしトッピーの中には、食べ物、飲み物が有りませんでした。機関長による説明では、飲み物の自販機はあるものの電源がダウンして使うことができないとのこと。それだけで説明をやめておけばよいのに、「以前の衝突事故の際にも、鍵を待たされておらず、パールを使ってこじ開けようとしたが開きませんでした。今回も開けることができません。」などと説明するものだから、すかさず乗客から「なぜ前回の教訓を生かして自販機の鍵を持っていないのか？」と突っ込みが入ります。こういうのをヤブヘビというのでしょうか。そうこうしているうちに、船会社が手配した食料と飲み物の差し入れ船がやって来ました。額に㊦と書いた大型の漁船のような船です。トッピーの左舷に横付けして荷物をあげようとしたところ、まもなくドーンという音とともに衝突してしまいました。当たった一と思ったら、1階から「やめろー、やめろー、離れろー」と叫ぶ保安官の声が響いてきます。2階にいる我々には見えなかったのですが、この時㊦丸の触先がトッピーの1階の窓を突き破って突っ込んだのでした。高波にもまれるトッピーの1

階窓が破れてしまい、そこから水が入ってきたらどうなったかと思うとぞっとします。しかしそんなことではへこたれない㊦丸は、今度は後部から接近し、ロープを渡して、ついににおにぎりと飲み物を配達するミッションを成功させました。

船内では早速配布が始まりました。再び添乗員さん達がおにぎり2個とペットボトルの飲み物を配ってまわります。さすがに見かねて1階への配布を手伝いました。2階と違い1階は怪我人がでたこともあってか、みな意気消沈しており、床に倒れ込んでいる人達がたくさんいます。その横で保安官がさっき破れた窓をガムテープで修復していました。そこまでして届けられた食料ですが、配布しようとする多くの方が手を横に振って「いらん、いらん」と横を向いてしまいます。見たくもないというのが本音だったのでしょうか。まさに1階は修羅場という感じでした。2階に乗って本当に良かったです。

朝飯も食べずにコーヒー1杯だけ飲んで飛び乗ったトッピーだったので、酔っていない私には、この塩だけのおにぎりがあるとありがたかったです。しかし船はあいかわらずゆっくりと走っています。16時過ぎの保安官の説明では、曳航速度は5.5ノット、時速約10kmで進んでいるとのこと、シーカヤックと変わらない速度で山川港を目指しています。あと5時間ほど上陸までかかりそうだというんでもない話を聞かされますが、それでも最後には拍手で称える暖かい乗客達。

さて電源の落ちた船に夜が迫ってきました。保安官はまもなく真っ暗になるから早めのトイレに行っておくようにと言っています。ブルネイ荷物の中には、ヘッドライトもサーチライトもあったのですが、ロスト バゲージでそれもなく、さすがにこの状況で真っ暗になると困るなと思いました。18時45分、ついに陽が水平線に沈みます。あたりが次第にほの暗くなってきました。その時、後方からサーチライトがトッピーを照らしました。何もしていないと思っていたパーシーについて出番がやってきたのです。窓から射し込むパーシーの灯りで、船内の様子が照らし出され、暗闇に閉ざされることをまぬがれました。パーシーありがとう。

19時50分、ようやく佐多岬沖まで戻ってきました。まだ激しく揺れています。遠くに佐多岬の灯台の灯りが見えてきました。屋久島灯台のところで、最近GPSなどが普及して灯台の役割がなくなってきたなどとガイドをしていたのですが、こうしてエンジンが停止し電源を失って漂流していると、遠くに見える灯台の灯りがなんと愛おしいことか。デジタルな情報ばかりがもてはやされる昨今ですが、まだまだアナログな灯台の必要

性が強く再認識されました。

佐多岬を越えてようやく揺れが少しおさまってきました。暇な我々相手に保安官の事情聴取がはじまりました。名前、連絡先の確認やクジラを見たかとか写真に撮ったかとか、これからの捜査に必要な情報をきかれました。怪我人がでていることもあり、やはり捜査ということになるらしいです。一応最初に撮影したクジラの写真を野村君に見せておいたら、後日保安庁から証拠として写真の提供を求められました。

船内では外の情報が得られませんでした。保安官の説明によると山川港では大変な騒ぎになっているとのこと。船から下りると花道に消防や警察で人垣ができており、そこを通過してメディカルチェックのテントにはいり、体調チェックを受け、それからバスに乗り込むという段取りで、マスコミが多数押し寄せられているとのことでした。中では暇なので、整然と下船するために作戦会議が開かれ、どの団体からどの順で下りましよう綿密な計画が立てられました。ところが船が接岸したとたん、そのような計画は吹き飛んでしまいました。あつというまに救急隊員や消防が多数乗り込んできて、好き勝手に下船の指図を始めたからです。もう何がなんだかわかりません。しょうがないので指示に従うと、案の定1階の下船が進んでおらず階段で渋滞する始末に。あの綿密な打ち合わせはいったい何だったんだと思わず苦笑するしかありませんでした。

結局『さつま』は予定通り21時過ぎには山川港沖にたどり着いたのですが、『さつま』では大きすぎて、トッピーを接岸させることができないということで、小型の船に繋ぎ変えて接岸を試みました。しかし強風のため最初は接岸に失敗、風がおさまるのを待って2度目の挑戦でようやく山川港に接岸できました。この時すでに23時となっていました。鹿児島港で乗船してから15時間15分、クジラに衝突して漂流をはじめから14時間が経過していました。

山川港は、保安官の話の通り、人垣の花道ができており、大変な騒ぎとなっていました。乗客184人に一人ずつ番号札を着けて、メディカルチェックを行い、宿泊先へ誘導する準備が整っていました。これだけの準備をするには、種子島では難しかったのかもしれませんが。とは言えメディカルチェックは、「どこか具合悪くありませんか？」と声をかけられただけで、元気な我々はほぼ素通りでした。この外では、マスコミが待ちかまえており、我が池田君がNHKのインタビューに答え、堂々全国ニュースデビューを飾りました。たくさんのインタビューの中で彼が選ばれたのは、沈着冷静な状況報告と疲れ切った表情

のせいでしょうか？

こうして我々はバスに乗り込み、この日も屋久島にたどり着くことなく、帰国後3泊目の宿泊先、指宿いわさきホテルへと運ばれていきました。ホテルに着いたのは、既に0時前でした。ホテルでは、もう砂蒸し温泉は終わっていると言われましたが、豪華なバイキングを用意して待っていてくれました。食事会場の入口に立っていたちょっと偉そうな男性に、「とりあえず生ビール！」と頼んだところ、「すみませんお客様、ビールは別料金になります。」といわれ、「えええええ * @ & % \$ ~ ? 」と叫んだところ、「失礼しました。船会社につけておきます。」ということになり、翌23日0時過ぎ、ビールで乾杯することができました。奇しくもこの日は私の51回目の誕生日でした。朝からおにぎりしか食べていなかったため、豪華な料理をたらふく食べ、そしてデザートには池田君が取ってきてくれたケーキを食べ、思いもかけぬ誕生日ディナーを終了しました。温泉で疲れを癒し、この夜はさすがにぐっすりと眠りました。

翌朝再び同じ時間のトッピーに乗船し、屋久島を目指しました。名古屋の団体は脱落しましたが、北海道の団体は再び同じ船で屋久島を目指しました。もちろん全員シートベルトをしていたのは、いうまでもありません。おだやかに何事も起こらず、今度こそ屋久島に帰ってくることができました。

帰って南日本新聞を見ると、トッピーの前方の水中翼はもぎ取れ、船底には大きな穴が開いていました。保安官は「沈まないから安心して下さい。」と言っていました。事故は想像以上に深刻だった模様です。また翌日、海上保安庁が発見したザトウクジラの死体は、サメがうようよして回収できなかったとか。沈んでいたら本当にえらいことでした。兎にも角にも無事帰島することができ、関係者の皆様に感謝をするとともに、気丈に働いてくれた添乗員の方々、冷静に助け合って救助を待った乗客の皆様を称えたいと思います。くれぐれもシートベルトは忘れずに。



インタビューに答える池田君(NHK)



人生、気掛かりな事がいくらでもあるものの、とりあえず今は健康だし、私は、カメラと、それらにかかる出費、あとは美味しい飯を安く作る方法について、よく考えるようになりました。そしてそれは、そういう事を考えなきやいけなくなったからでもあります。

何事もお金をかければ、それなりの物ができますが、「工夫の楽しみ」や、「目標予算内で仕事をこなして、稼ぎを増やす楽しみ」が無くては、つまらない。また、そういった方法がお客様に伝われば、お客様にとって、大きな楽しみや思い出、そして技術習得につながるでしょう。そういえば5月に案内したお客様から、「こんな写真を撮りました」と作品を頂戴しました。機材はPENTAX「K-5」、お友達の結婚式撮影に使ってから久々の出番だったそうで、めったにお目にかかれない機種。一度試してみたかったので、私も色々使わせていただきました。



紀元杉がこんなに重厚に撮れるとは。ペンタックス、改めて拍手。

さて、縦走から日帰りまで、よっぱどの雨でなければ、食事は何でも作ってみよう。「野外活動総合センター」なんだし。というわけで、「ホットサンド」「塩麹漬け肉のドンブリ」「燻製飛魚の Pasta」「燻製飛魚のスープ」「豆乳ポタージュ」をやってみます。全部、妻のアイデアです。

ホットサンド 1人前 ¥140-ぐらい
パン屋さんで、食パンを1.3mm厚にスライスしてもらおう。この厚みで、私の使うタッパーに4枚重ね×2でピタッと収まる。(タイトル写真参照) ガス用のホットサンドメーカー「BowLoo」で挟んで焼く。中は身は
・ガーキンピクルス一本(一本を6枚にスライス) ¥15-
・とろけるスライス一枚 ¥25-
・ベーコン(パン並みに広げる) ¥20-
・ケチャップ・タルタルソース・粒マスタードを適量 まとめて ¥40-
以上を パン2枚(¥40-)に挟む。
サンドイッチには、酸っぱい物があつたほうがいいです。レタス等あれば、なおいいですね。

塩麹漬け肉のドンブリ 4人前 ¥700-ぐらい
鶏ムネ肉を2cm厚ぐらいで(一人4切れ)、塩麹に漬けて運ぶ。現場ではフライパンでトマト・玉ネギと共に炒める。ごま油と塩コショウ。火が通ったら水100ccとコンソメでもうどんスープでも醤油でも足して、溶き卵でゆるく閉じる。炊いたご飯にのせて簡単親子丼。
・ムネ肉 16切れ 塩麹漬け ¥250-
・トマト 1個 ¥130-
・玉ネギ 1個 ¥40-
・コンソメあるいはうどんスープ 1個 ¥15-
・卵 2個 ¥30-
・米3合 ¥240-

燻製飛魚の Pasta 4人前 ¥950-ぐらい
Pastaですからね。麺を茹でながら、ソースを作って、後で絡める。最後に、とろけるスライスをのせて、バジルと塩をふってイタダキマス。トマトソースの酸味消しに、「味噌と砂糖」ってのは、感心しました。
・燻製飛魚 ¥525-
・Pasta300g ¥200-
・カットトマト缶400g ¥100-
・味噌大さじ3杯 砂糖大さじ1杯 合わせて ¥20-
・とろけるスライス ¥25-(4人で ¥100-)

燻製飛魚のスープ 4人前 ¥600-ぐらい
ガス代と現場手間の節約で、熱湯を持っていきます。コンソメを溶かして、具を入れて、卵を溶き入れるだけ。コショウか生姜、ニンニクが入っても美味しいです。
・燻製飛魚 ¥525-
・コンソメ3キューブ ¥45-
・卵 2個 ¥30-
具を工夫すれば、(たとえば鶏モモ肉とトマト)、ポトフっぽく おしゃれにできます。

豆乳ポタージュ 4人前 ¥360-ぐらい
豆乳と同量の湯に、コンソメを溶かしてから豆乳、コーン、ベーコンを入れて、沸騰直前までコトコト。塩、ニンニクも入れる。
・紀文の調整豆乳 200ml×2本 ¥200-
・コンソメキューブ×2 ¥30-
・スイートコーン一缶 ¥100-
・ベーコン 2枚 ¥20-
・塩とニンニク ¥10-



鶏肉・トマト、ゴマ油と塩コショウ。これにチーズが載ればイタリアン。



ホットサンドが、うまくできたので、iPhoneで撮っている。



焼きたては熱いので、やけどに注意。



ホットサンド賛沢版だと、角煮を入れたり。



ピクルスは、スライスしてから、市販キムチの器に入れ替えます。



豆乳スープ。バジルと塩とニンニクで、美味いと思えるようにする。

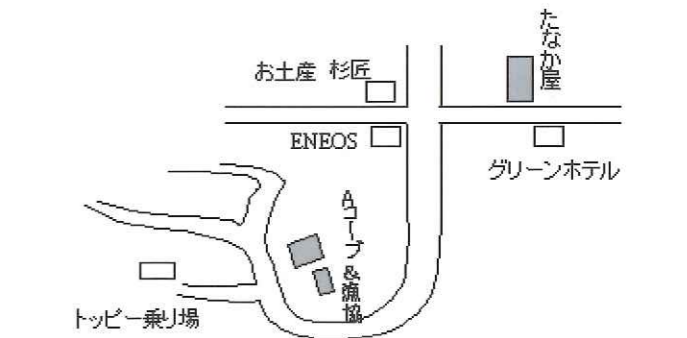


トマトサーディン(チリ味)一缶 ¥100-。これでPasta4人前できる。



燻製飛魚入り トマトソースがけPasta。チーズと山椒のせ。

安房に住んでいますので、買い物は「Aコープ」と「たなか屋」です。Aコープは、すぐ隣に「漁協特産品市場」があり、燻製飛魚が買えます。
・たなか屋はPM9時ごろまで
・AコープはPM7時-8時まで(冬と夏で変わる)
・漁協はPM5時まで。



普段使いの焼肉パックも、野菜とソースでかなり美味しくなります。10月過ぎれば、豚コマ味噌漬けとカットレタスで、簡単焼肉。夏は傷みやすいので、葉っぱ物は避けて玉ネギを使います。賛沢より工夫。ステーキ肉を凍らせて運び、山で焼いた事もあります。ワインがあると最高。「頑張ってたかた〜」と思えます。心から満足感を得られる、体にも栄養のある美味しい食事を！軽量化と防菌には十分な注意を！今日もまた、枕元の料理本で眠りにつきましょう。



冬の北海道遠征

比留間 雄太

屋久島の観光は12~3月の間、静かになる。この4ヶ月の間、北海道占冠村のスキー場へ冬修行に行ってきた。ここは、今季最低気温-31.4℃(2012/1/26)を記録するほど、北海道の中でも極寒の地である。温暖湿潤な屋久島とは真逆の環境ではあるが、多様な自然を持ち合わせるこの日本を、この身を通して経験できることは嬉しいことであった。とはいっても、やはり北国は寒いもので、12月初めにまず札幌に到着した時、町中を歩く女性達が手袋も着けずに平然と歩いている姿に驚いたり、前が見えない程の吹雪にあったり、温暖地育ちの僕は少し不安になった。だが、それ以上に、北海道の未知の生活に期待を感じる時でもあった。

●今回の遠征目標。

1、スキー技術の上達、2、バックカントリースキーの経験、3、北海道の自然を肌で感じる。

1、スキーは小学生から始めたが、本格的に練習するのは今回が初めて。今のレベルがどの程度なのか、まずは、全日本スキー連盟(通称:SAJ)バジテストの1級を受ける事を一つの目標にした。ただ、現在の主流のカービングスキーは以前のストレートのとは、ターンの仕方が全く違う。感覚の違いに戸惑いながらも、少しずつ内足感覚に慣れてきて、コツを掴むと、今までの滑り以上にターンがグイグイ回るようになった。今更ながら、カービングスキーの面白さを知った。また、ただ滑るだけでなく、ジャンプ、ハーフパイプ、レール等の、トリッキーな滑りにも挑戦し、自分の課題がどんどん増えいき、どれだけ時間があっても足りないくらいであった。ただ、目標にしていたバジテストは1級合格に2点足りず、悔しい2級取得で終えた。(1級を取得し

たら、フリースタイルスキーに転向しようと思う。)

2、ゲレンデ外の雪山を滑る、バックカントリースキーにも挑戦した。これは、ゲレンデではない場所を自力で苦労しながら何時間も登り、下りは一瞬で滑り降り。1本を大事に滑る感覚や、人が全く滑っていない雪の中を進む優越感はとても新鮮だった。ただ、管理されていない場所であるため、冬山の知識、読図、体力が必要になる。少しずつ確実にレベルアップして、今後もチャレンジしていきたい。

3、期間中の体験。

スキー(屋間15回、ナイター20回)

旭山動物園、北海道大学、釧路湿原、屈斜路湖、阿寒湖、洞爺湖、登別、層雲峡、アイヌ民族博物館、紋別の流氷、小樽運河 etc.

北海道の開拓の歴史は、この100年の事だという。全国各地からこの地に移り住んできた。北海道は、広大な牧場、農場が地平線までずっと続くだけ広い景色がよく見られるが、この開拓によって作り出されたものとそれ以前のアイヌ人の生活等の関係など、今の景色を見ていると歴史を感じずにはいられない。(ニュージーランドでも同じ感覚を抱いた。)わずか100年の間に、広大な森林を切り崩し、耕し、今の北海道の景色を作り出したのだろうか。今後、北海道の歴史はアイヌ文化と共に知りたい事の一つになった。

4ヶ月の間、ずっと「白」の世界。「冬は何もないから嫌いだ」という道民の声も多く聞いた。僕は、南の屋久島にいるからこそ、より北国の色々を味わえたのだろう。「日本は広いなあ。」各地を歩いて、家に帰ってくると毎回思う。



屋久島銘水うどんを食べよう!

池田 裕二

■なぜ屋久島で五島うどんなのか

上五島の浜崎製麺所の浜崎社長が観光連合の屋久島視察で来島された際に、白谷雲水峡をご案内しました。そこで屋久島の水のおいしさに感動された麺匠浜崎氏が「ぜひ屋久島の水でうどんを作りたい」とおっしゃったので、「じゃ水を送りますよ」といって白谷川水系の羽神の滝の水を送ったところ、うどんになって帰ってきて、これがめっちゃ美味い!是非商品化しようということ生まれたのが「屋久島銘水うどん」です。

■うどんの素材の良さ

味、コシなど吟味して匠が選り抜いた小麦粉に、くわえる塩は「とっぺん塩」。自然の恵みを生かした海水をこだわりの製法で太陽と潮風でじっくりと造る塩で、全国的にも完全天日干しの塩は非常に少なく貴重な塩だそうです。なお、油を使わずに練る不油完熟麺。

■屋久島銘水うどんを食べることができるのは YNACのツアーだけ!

スノーケリング、ダイビング、カヤックなどのツアーで屋食に準備いたします。(カヤックでは少人数の時のみ。稀に宿泊登山で出ることも。)噂が噂を呼び、「うどん指名」でリバーカヤックツアーを申し込まれたお客様もいらっしゃいます。

屋久島のおみやげは...笑顔

松本 淳子

遠路はるばる屋久島までおいでくださるお客様は、休暇中の仕事に支障がないようにおそらく前日まで忙しく働いてこれているのでしょうか。

更に飛行機や新幹線、船を乗り継ぎ、ようやく屋久島に到着した時には、気持ちは高揚しつつも、身体には疲労が蓄積したまま...ということになってはいませんか?

屋久島の自然の癒しパワーをいっぱい受け取るために、屋久島に到着したらまずは凝った心身をほぐしませんか?



■トッピングで屋久島の名産を堪能

まずはうどんだけをつつと味見してください。天然塩の味が効いた、なめらかでコシのある麺そのものの風味が素晴らしい...そして、次は麺つゆ(おすすめはサバ節使用「屋久の露」とうどんだけで、うどん本来の味をシンプルにお楽しみください。そして屋久島らしいトッピングをお好みで入れて、「屋久島銘水うどん」の完成!!

さば節...言わずと知れた屋久島の名物。焼酎のおつまみとして屋久島では定番です。

屋久とろ...屋久島で人気の山芋とろろ。フンドーキン(刺身醤油(松本社長愛用)をちよつとたらすと美味。長〜く伸びる腰の強さで人気。

塩らっきょう...屋久島では酢らっきょうではなく塩らっきょうが人気。市川家特製は隠し味に三岳が入っている屋久島スペシャル。残念ながら非売品です。

きざみのり...鹿児島県出水産をAコープでゲットしよう。

■お買い求めは、YNAC 他、安房の杉の茶屋(屋久杉自然館)、麦生のポンタン館(トロキ滝前)、空港前のまんてんマーケットなど、1袋3人前525円

YNAC事務所でこの夏から行う予定の笑顔施術は、肩や首のコリもほぐれますし、顔や頭部のツボを刺激することで疲れた眼はすっきりし、表情筋のコリもほぐすというものです。自然の中で思い切り笑うための準備ができますよ。

また長時間の乗り物での移動で脚のむくみや腰の違和感がある方も、あらかじめほぐして翌日からのアクティビティに備えることをお勧めします。

もちろん屋久島で思い切り楽しんで帰る間際、ちよつと時間があるのでお土産でも...と思っている方にも、YNAC事務所で笑顔施術をお土産にしませんか?

そう、屋久島のお土産は...笑顔です。

笑顔施術は男性の方もどうぞ、むしろ男性の方にこそお勧めです。

Calendar · 2011-12

2011

- 6/12 市川 屋久島自然クラブ『高盤岳』
 6/17 ガイド連絡協議会ゴミ拾いに参加・白浜
 6/20-21 小原 佐渡エコツアーガイド養成講座講師
 7/9-24 岡田 NZより里帰りアルバイト
 7/13 松本 屋久島自然クラブ『スノーケリング』元浦
 7/15-18 風カルチャークラブ・アカテガニの産卵
 7/26 TOK スポーツクラブ小学生磯遊び受け入れ
 8/11 市川 屋久島自然クラブ『イソモン獲り』矢筈管理棟
 8/16-17 東京私立中学高等学校協会生物の先生研修
 8/19 市川 NHK アーカイブス取材・ヤクスギランド
 8/20-31 岐阜県立森林文化アカデミー西岡里子短期研修
 8/26-28 教員免許更新講習・岡山理科大学
 8/29 福井県 SSH ヤクスギランド研修
 8/30-9/3 岡山理科大学エコツーリズム技法実習
 9/16-18 松本 屋久島太鼓で青森浪岡町のイベント遠征
 9/23-24 倉敷芸術科学大学縄文杉登山講師
 10/9-10 松本 東京環境工科専門学院スノーケリング実習
 10/12-14 鳥取東高校研修旅行受け入れ
 10/13 市川 屋久島自然クラブ『前岳参り』
 10/15-18 キャラバンサライ・ツアー受け入れ
 10/19 市川 屋久島ブック2012取材
 10/20-23 松本 二戸復興支援エコツーリズム大会
 コーディネーターとして参加
 10/27 松本 風カルチャークラブ・ツアー説明会
 10/31 市川 雑誌取材・大雨で白谷からランドへ変更
 11/5-6 松本・小原 JICA 研修講師
 11/6 小原 屋久島自然クラブ『植物観察』
 11/26 小林 事務退職・長い間ご苦労様でした。
 12/1 市川 自然保護協会聞き取り調査に協力
 12/18 松本 環境省世界遺産シンポジウム
 サンゴモニタリング事例発表
 12/31-1/3 風カルチャークラブ・年越し太鼓ツアー

2012

- 1/2 市川 MTB ポタリングツアー開始・高平～尾之間
 1/17-30 池田 自動車2種免許取得教習
 2/1-2 松本・小原 JICA 研修講師
 2/9 小原 野外救命救急講習
 2/13-16 風カルチャークラブ・はじめての屋久島
 2/15 松本 日本エコツーリズム協会企画委員会出席
 3/1 市川 京都新聞取材
 3/4-6 松本 モニタリング1000検討会に参加
 3/16 小原 屋久島高校環境コース実習
 3/28 松本 屋久島自然クラブ『春のタイドプール』
 4/7-8 小原 WMA 野外救命救急講習・前橋
 4/14-20 市川 ボルネオ・ブルネイツアー講師、池田参加
 4/22 市川・池田 トッピーのクジラ衝突事故に巻き込まれる
 4/24-26 JICA 研修受け入れ
 5/21-22 道新観光ツアー受け入れ

Contents

巻頭言「屋久島で忘れていた何かを思い出す」	松本 毅	1
トッピーvsクジラ騒動記	市川 聡	2
レッツ・ゴー！ジャングル!!珍獣珍草ハント	池田裕二	6
安上がりごはん	櫻村精一	8
冬の北海道遠征	比留間雄太	10
コラム・屋久島銘水うどんを食べよう！	池田裕二	11
コラム・屋久島のおみやげは・・・笑顔	松本淳子	11
屋久島の歴史・鎌倉時代から日蓮宗布教まで	小原比呂志	12

- 5/31-6/3 風カルチャークラブ・シャクナゲと発光キノコ
 6/7-27 JR ホテルとの提携ツアー実施
 6/8-10 松本 海辺の環境教育フォーラム参加
 6/11 松本 日本エコツーリズム協会エコツアーカフェ出演
 6/12 松本 日本エコツーリズム協会理事会出席
 6/16-17 松本 風の旅行社主催東北支援シンポジウム参加
 6/24-7/1 小原 中国雲南省スタディーツアーに参加
 6/25 島内宿泊施設関係者へ体験ツアーを実施
 6/29-7/1 自由の森学園修学旅行受け入れ

執筆・取材記事

- ・屋久島の地質ガイド (市川、小原他共著) 屋久島環境文化財団
 屋久島の地質を最新情報で構成した現時点での決定版ガイドブック
- ・屋久島ブック2012 (市川) 別冊山と溪谷社
 白谷雲水峡の森歩きを紹介。半日の取材で、入口近くだけだったのですが、十分に美しい森を紹介できました。
- ・屋久島レッキングサポートBOOK2012 (市川) NECO MOOK 1753
 白谷の取材でしたが大雨のためヤクスギランドに変更。おかげでヤクスギランドの素晴らしさをお伝えすることができました。
- ・両親に贈りたい旅 (市川) A-Works
 世界の旅 26 選の中で、国内で唯一屋久島が取り上げられました。「両親に贈りたい旅ってどこですか？」と聞くと「縄文杉です。」と答えたので、「それでは親殺しになりますよ。」ということで、縄文杉に行かなくても楽しめる屋久島の旅をプロデュース。

編集後記

☆世の中、不信だらけですが、自然は決して裏切りませんね。(た)
 ☆リニューアルした事務所で皆様をお迎えます。(じ) ☆ブルネイ
 国王はかつて国民のためにマイケルジャクソンの無料コンサートを
 開催したそうです(ゆい) ☆YNAC 事務所で屋久島情報室を閲覧でき
 ます。おもしろ動画など貴重な情報満載です。(さ) ☆最近の休日は、
 あえて体を休めないように心がけています。(ゆひ)

YNAC 通信(ワイナックつうしん) NO.29

発行日: 2012年7月20日

発行: (株)屋久島野外活動総合センター

住所: 〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 368-21

TEL 0997-42-0944 FAX 0997-42-0945

E-mail: forest@ynac.com URL: <http://www.ynac.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/Ynacyakushima>